

音楽科学習指導案

指導者 松 前 良 昌

日 時 平成26年11月22日（土） 第2校時（11：05～11：55）

年 組 中学校第3学年1組 計39名（男子18名，女子21名）

場 所 中学校音楽教室

題 材 合唱表現を自分たちで工夫しよう

「大切なもの」 作詞・作曲：山崎朋子 混声四部合唱版編曲：松前良昌（校内用）

題材について

本題材では、歌詞の内容や曲想を理解し、味わうことによって、生徒自らが自己のイメージや感情を意識して曲にふさわしい歌唱表現を工夫していくことをねらいとしている。教材の「大切なもの」は作者が中学時代を思い出しながら作った混声三部合唱曲であり、同時期の生徒の心情をよく表現している。歌詞の内容がわかりやすく、生徒一人ひとりが自分の思いをこめて表現できると考えられる作品である。しかも、旋律やコード進行などが親しみやすい、ユニゾンで始まっているので歌い出しやすい、ハーモニーが美しい、サビはア・カペラでの練習がしやすい、曲想の変化がつけやすいなど、多くの指導しやすいと、生徒が上達しやすい要素をもっている。ここでは授業者自らが混声四部合唱に編曲したものを使用することで、主旋律を受けもつパートを一部変えるなどの変化をさらに加えて曲想をつかみやすくするとともに、音域にも留意することで、より歌いやすくしている。

本校の生徒は音楽に興味・関心をもっている生徒が多い。9月から実施した校内合唱コンクールの練習では、3年生は自ら授業で取り組む前に放課後等にパート練習をして、授業では全体練習の時間を確保するなど、意欲的かつ計画的・効率的に取り組んでいる。また、縦割り交流では、1年生を指導している。これらのことは下級生にとってよい模範となっている。授業では、指導に対しての反応もよく、自ら考えて表現しようとしたり、自分で詩の意味や曲の構成について調べたりする生徒もいる。本校では、個に応じた音域、バランスなどを考慮するとともに、より豊かな音の重なりをめざして第2学年から混声四部合唱に取り組んでいる。その結果、合唱にふさわしい発声が次第に身についており、豊かな響きをもった質の高い演奏となってきている。しかし、技能面の向上の一方で、楽曲のどの部分でどの技能を活かして合唱表現を工夫するかを主体的に考えることは、十分にはできていないと考えている。その一方で、1年生の時は教師の細かい指示を待っている状況であったが、次第にリーダーを中心に自分たちで合唱表現の工夫を考えるようになってきており、教師が助言をしなくとも自分たちで表現を工夫する基礎は身につけていると考えている。

合唱表現には、作品に込められた作詩・作曲者の思いを汲み取り、解釈し、歌声で表すこと、つまり思考・判断し、表現することが求められる。その際に、身につけた技能をどう活かすかを考え、どれを選択するか判断し、よりよい表現をするために実際に利用できることが必要となる。そこで、合唱スキルの効果的な指導法として比喩的表現を用いた指示を織り交ぜることで技能の向上をめざすとともに、よりよい表現をめざして生徒がリーダーを中心として主体的に技能を活用して合唱表現できるよう指導していきたい。さらには練習方法や形態の工夫により、生徒の思考力や判断力が求められる場を増やし、高めさせていきたい。そして他のパートとのかかわりを意識させるとともに、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きの調和を感じ取らせ、曲にふさわしい豊かな表現ができるよう指導したい。

指導目標

1. 生徒自ら発声や音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して合唱表現できるようにする。
2. 歌詞の内容や曲想，声部の役割や全体の響きを感じ取らせ，表現を工夫できるようにする。

指導計画

1. パート別および全体練習 ----- 2時間
2. 全体練習 ----- 2時間
3. まとめの表現 ----- 2時間（本時はその2時間目）

本時の目標

1. 自分の声の状態を理解し，音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して歌唱することができる。
2. 歌詞の内容や曲想を考えながら，歌詞の意味が伝わる表現を工夫して歌唱することができる。

「学びのつながり」の視点

小・中学校音楽科では音楽活動を重視し，活動を通して，自分の思いや意図を演奏に表す方法を一つひとつ身につけさせることが重要であると考えている。学年が進むにつれて，単なる自分の思いや意図から，楽曲の理解を深めて曲想を活かした表現をするための自分の思いや意図へと深化する。さらには，相手に伝える，つまり聴く側を意識した演奏ができるようになってくる。本授業では，義務教育9年間の集大成として，生徒自らが歌詞の意味や内容，曲想，音楽を形づくっている様々な要素を根拠として，身につけた音楽的スキルを作品のどの部分でどう利用するかを自ら思考・判断しながら，自分の思いや意図を聴き手に伝えるような豊かな表現ができるようにしたいと考える。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆ 評価）
1. パート別練習 ☐ 発声や音程，リズムなどに注意して，パート別に活動する。 ☐ パートリーダーが中心となって活動する。	○表現を工夫するための方法を助言する。 ・腹式呼吸になっているか。 ・出だしの音からきちんと歌っているか。 ・発声法を意識して歌っているか。 ・音程を正しく歌おうとしているか。 ・強弱などを考えて歌おうとしているか。など ◆自分の声の状態を理解しながら，音楽的スキルを活かして歌うことができるか。 【音楽表現の技能】
2. 全体練習 ☐ 主として生徒指揮，後に教師が指揮をする。 ☐ 発声や音程・リズムなどに注意して歌う。 ☐ お互いの演奏を聴き合い，曲にふさわしい表現になっているかどうかを発表し合う。 ・ローテーション形式 など	○演奏の状態に応じて助言をする。 ・呼吸法や発声法に気をつけているか。 ・リズム，音程，強弱などに気をつけているか。 ・子音の発音を工夫しようとしているか。 ・パートの声を揃えることを意識しているか。

□歌詞の内容をもとに、曲想に合った合唱表現を工夫する。 ・生徒指揮の指示、パートごとの相談 など □部分ごとに曲想の変化をつけて歌う。	・他のパートを聴いて、ハーモニーやバランスをよくしようとしているか。 ・言葉の意味を伝えようとしているか。 ・曲想を考えて歌おうとしているか。 ・聴衆を意識して歌おうとしているか。など ○生徒の状況を常に把握することを意識する。 ・説明より歌う時間が多くなるよう心がける。 ・声を休ませるタイミングに気をつける。 ・指示をする時に、一度にたくさんのことを言わない。 ・はじめは、あえて抽象的に指示することで自分でどう工夫するかを考えさせる。効果が表れにくい場合は、徐々にわかりやすく簡潔で具体的な指示をする。 ・今、何を指示するのが生徒にとって最も適切かを、常に考えて指示をする。 ◆歌詞の内容や曲想を考えながら、表現を工夫して歌唱することができるか。 【音楽表現の創意工夫】
3. まとめ □通して歌う。	◆自ら考えた表現の工夫をいかして歌唱することができるか。 【音楽表現の創意工夫】

- 参考文献** 山崎朋子作詞・作曲「大切なもの」教育音楽[中学・高校版]10月号別冊付録（楽譜資料），音楽之友社，2005.
- 松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法Ⅳ－比喩的表現を用いたキーワードによる発声指導の効果の検証－」広島大学附属東雲中学校，2014.
- 松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法Ⅲ－比喩的表現を用いたキーワードによる発声指導の実践研究－」広島大学附属東雲中学校，2013.
- 松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法Ⅱ－正しい発声で歌えるために，比喩的表現を用いた歌唱指導を通して－」広島大学附属東雲中学校，2012.
- 松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法－正確な音程で歌えるために，自分自身の声を聴く試みを通して－」広島大学附属東雲中学校，2011.
- 三村真弓・松前良昌他『中学校・高等学校音楽科における聴取力育成プログラム開発のための基礎的研究－聴取力に着目した音楽科学力調査をとおして－』学部・附属学校共同研究紀要No. 39，広島大学学部・附属学校共同研究機構，2010.

参考資料 過去3年間の校内合唱コンクール 課題曲・各クラス自由曲

平成26(2014)年度

課題曲	大切なもの (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	山崎朋子 作詞・作曲
1年1組	合唱組曲「ことばあそびうた」より 1. やんま 5. かぞえうた	谷川俊太郎 作詩 / 新実徳英 作曲
1年2組	合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」より 1.サーカスのうた 5.動物を殺せ 10.ぞうれっしゃよはしれ	小出隆司 原作 / 清水則雄 作詞 / 藤村記一郎 作曲
2年1組	混声合唱組曲「海の詩」より 2. 内なる魚(シーラカンス) 5. 航海	岩間芳樹 作詩 / 広瀬量平 作曲
2年2組	混声合唱とピアノのための「新しい歌」より V. 一詩人の最後の歌 アンデルセン H. C. Andersen 作詩 / 山室 静 訳詞 / 信長貴富 作曲	
1・2・3年3組	映画「かぐや姫の物語」主題歌 いのちの記憶	二階堂和美 作詞・作曲
3年1組	Candlelight Carol (ともしびのキャロル) Lamentations of Jeremiah (エレミアの哀歌)	ジョン ラター John Rutter 作詞・作曲 ランダル ストゥルーブ Z. Randall Stroope 作曲
3年2組	混声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」より 4. くちびるに歌を－Hab' ein Lied auf den Lippen－ ツェーザー フライシュレン Cäsar Fleischlen 作詩 / 信長貴富 訳・作曲	

平成25(2013)年度

課題曲	虹をこえて (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	人見敬子 作詩・作曲
1年1組	混声合唱組曲「ひとつの朝」より ひとつの朝	片岡 輝 作詞 / 平吉毅州 作曲
1年2組	青葉の歌	小森香子 作詞 / 熊谷賢一 作曲
2年1組	混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より 6. 地上の祈り 7. 大地讃頌	大木惇夫 作詩 / 佐藤 眞 作曲
2年2組	混声合唱組曲「海鳥の詩」より 2. エトピリカ 4. 北の海鳥	更科源蔵 作詩 / 広瀬量平 作曲
1・2・3年3組	明日があるさ	青島幸男 作詞 / 中村八大 作曲
3年1組	混声合唱組曲「いまぼくに」より I. よげん IV. いまぼくに	谷川俊太郎 作詩 / 信長貴富 作曲
3年2組	混声合唱組曲「幼年連祷」より II 不眠 V 喪失	吉原幸子 作詩 / 新見徳英 作曲

平成24(2012)年度

課題曲	虹色の明日 (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:二部合唱)	田中理恵子 作詩・作曲
1年1組	「11ぴきのネコ」合唱版 より ナーピきのネコが旅に出た 魚見えたか節 魚の子守唄 ノラネコ天国ソング	井上ひさし 作詞 / 青島広志 作曲
1年2組	混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」より ～故郷・朧月夜・われは海の子・村祭・雪～ 文部省唱歌[高野辰之作詩/岡野貞一作曲(一部)]/源田俊一郎 編曲	
2年1組	混声合唱とピアノのための「祈りの虹」より IV. “ヒロシマにかける虹”	津田定雄 作詩 / 新実徳英 作曲
2年2組	REQUIEM K.626 より Lacrymosa (涙の日) Domine Jesu (主イエス) Wolfgang Amadeus Mozart 作曲 / Franz Xaver Süßmayr 補作	
1・2・3年3組	時を越えて	梅野知子 作詞・作曲
3年1組	混声合唱とピアノのための「この星の上で」より 今年	谷川俊太郎 作詩 / 松下 耕 作曲
3年2組	混声合唱とピアノのための曲集「初心のうた」より V. 泉のうた〔抜粋〕 IV. でなおすうた	木島 始 作詩 / 信長貴富 作曲

※ 各クラスの課題曲・自由曲は、生徒の実態に合わせ、授業者が校内利用のために編曲している部分があります。